

# 60th Anniversary

川西市制施行 60 周年記念誌

北極星入口

ほっきょくせい いりぐち  
HOKKYOKUSEI IRIGUCHI

北極星

ほっきょくせい  
HOKKYOKUSEI

60年。

変わりゆくもの、

変わらないもの



年号 (西暦)	主な出来事
H 29 年 (2017)	キセラ川西（中央北地区）を整備。中央公園などが完成予定
H 28- 29 年 (2016- 2017)	新名神高速道路 川西インター線完成予定
H 28 年 (2016)	小学校の耐震化が完了予定
H 26 年 (2014)	アステ市民プラザオープン 「川西市地域分権の推進に関する条例」を制定 中学校の耐震化が完了
H 25 年 (2013)	第 5 次市総合計画を策定 京都美術工芸大学および京都建築大学校・京都伝統工芸大学校との連携協定を締結 大阪成蹊大学および大阪成蹊短期大学との包括連携協力に関する協定を締結（教育委員会は上記 2 大学とびわこ成蹊スポーツ大学との教育連携協力に関する協定を締結） 新関西国際空港株式会社と「川西市南部地域のまちづくりの推進に関する基本合意」と「大阪国際空港周辺場外用地（川西地域）の取扱いに関する覚書」を締結 プロペラ公園完成 第 1 回「川西市アーティストオーデション」を開催
H 24 年 (2012)	株式会社池田泉州銀行との連携協定を締結
H 23 年 (2011)	第 1 回きんたくんバルを開催
H 22 年 (2010)	「川西市参画と協働のまちづくり推進条例」を制定 郷土館にアトリエ平通をオープン

# 平成 29 年

…「キセラ川西」の中央公園などが  
利用可能に



●中央北地区を PFI 事業で整備

■キセラ川西内には、せせらぎ遊歩道や中央公園、公共施設を集約した複合施設などを整備。  
（※公募選定された「キセラ」は、輝きや希望を表す「キ」、まちを象徴するせせらぎの「セ」、都（洛）を想像させる「ラ」を合わせたもの）



# 平成 28 ~ 29 年

…新名神高速道路が完成予定

●市北部に建設中の新名神高速道路（仮称）川西インターチェンジ

☆ AR 用アプリで市の歴史を振り返る映像を！

AR ←このマークがついている写真にスマートフォンをかざすと動画が流れます

AR（拡張現実）を用いて動画を見るためには、お使いのスマートフォンに AR 用アプリをインストールする必要があります。

AR 用アプリのインストール方法について、詳しくは市ホームページ（URL=<http://www.city.kawanishi.hyogo.jp/koho/017393.html>）へ。



●時代絵巻のような源氏まつり



●大正ロマンの香り漂う東谷ズム



●たくさんの人でにぎわう川西まつり



●願いを込めたかわにし音灯り

# Future 今—未来へ

「幸せを感じるまち」の実現に向けて

市制施行以来 60 年を迎えた川西市。当時、人口約 3 万人であった本市も、一歩ずつ着実な歩み続け、自然豊かで便利な住宅都市として発展してきました。そんな川西の未来を想いながら、明日につながる 60 年の歴史をさかのぼってみます。



川西市長  
大塩民生

●新名神高速道路の建設工事現場

**市** 長の大塩民生です。今、本市は市制施行 60 年を迎え、新たな局面に向けてスタートを切りました。第 5 次総合計画「かわにし幸せものがたり」において、日常の生活の中で市民の幸せが実感できるまちづくりに向け、市民や事業者の皆さんと共に動き出しています。  
キセラ川西（中央北地区）では 4 月に起工式を、市北部を通る新名神高速道路では 7 月に六石山トンネルの貫通式を行い、市民の皆さんの利便性や満足度を高めるべく、着実に未来へと歩みを進めているところです。

また、「幸せを感じるまち」に欠かせない市民活動も一年を通して、各地域で盛んに行われており、本市の魅力の一つであると実感しています。もちろん、ここに至るまでに先人たちが積み上げてきた努力と成果があつてこそ今の市が持つ資源を最大限に生かす、さらなる発展を続けるためにも、この機会に今までの歩みを懐かしい写真と共に振り返りました。

時の流れとともにまちの風貌は変化していきます。しかし、魅力ある川西を支える市民の皆さんのまちづくりへの思いは、今も昔も変わりません。ここでは、まちの現在から近未来を見ていきます。



H 21 年  
(2009)

国崎クリーンセンター完成  
東洋食品工業短期大学との  
連携協定を締結

H 20 年  
(2008)

大阪青山大学および大阪青  
山短期大学との連携協定を  
締結

宝塚大学との連携協定を締  
結

市のシンボルキャラクター  
「きんたくん」誕生

H 19 年  
(2007)

商工まつりと JA まつりを  
一本化した「川西まつり」  
を実施

H 15 年  
(2003)

第 4 次市総合計画を策定

H 12 年  
(2000)

加茂遺跡が国史跡に指定さ  
れる

H 11 年  
(1999)

公園「ドラゴンランド」が  
オープン

H 10 年  
(1998)

阪神高速道路の大阪池田線  
延伸部が開通

H 9 年  
(1996)

阪急・能勢電鉄「川西能勢  
口」駅共用ホームが完成し、  
直通列車が運行

H 8 年  
(1996)

みつなかホールがオープン

都市計画道路・川西猪名川  
線が全線開通

H 7 年  
(1995)

阪神・淡路大震災発生

H 5 年  
(1993)

第 3 次市総合計画を策定

H 4 年  
(1992)

市庁舎を現在の場所へ新築  
移転

H 3 年  
(1991)

市立中央図書館がオープン

H 2 年  
(1990)

運輸省と大阪国際空港周辺  
都市対策協議会（11 市協）  
が「大阪国際空港の存続及  
び今後の同空港の運用等に  
関する協定」に調印、同空  
港の存続が決定



平成 21 年  
…国崎クリーンセンターがオープン

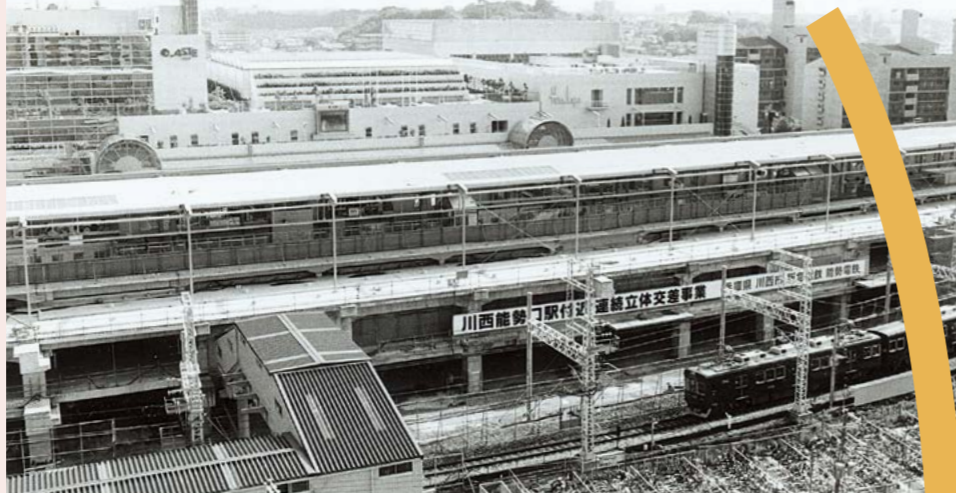
●啓発施設のオープン時には熱気球も  
を実施



平成 10 年  
…ビッグハープがまちの景観に

●開通後の阪神高速道路大阪池田線

平成 9 年  
…「川西能勢口」駅高架化で渋滞緩和へ



●立体交差事業で高架工事の「川西能勢口」駅

# Mature

## 成熟—今へ

安全で安心なまちへ生活環境を更に向上

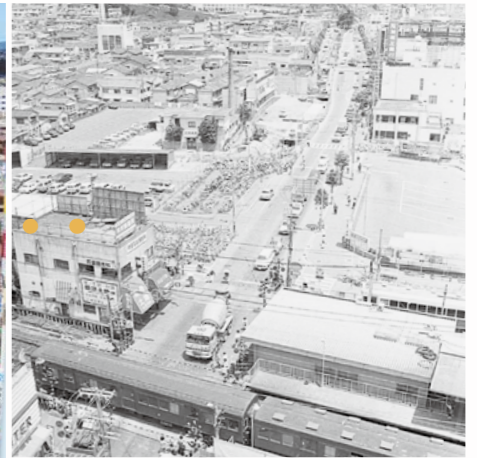
バブル崩壊後、「失われた 20 年」と言われた時代。厳しい財政状況の中ですが、必要な都市基盤整備を進めていきました。そんな中、平成 7 年には阪神・淡路大震災が発生。人と人とのつながりの大切さを再確認しながら、成熟期を迎えた時代です。



●みつなかホールがオープン (H 8)



●高架整備後の阪急・能勢電鉄「川西能勢口」駅と県道川西篠山線



●県道川西篠山線 (S 54)



●阪神・淡路大震災が発生 (H 7)

国崎クリーンセンターは、川西市、猪名川町、大阪府豊能町、能勢町の 1 市 3 町から排出される一般廃棄物の中間処理を行うため、平成 21 年 4 月にオープンしました。全国でもトップクラスの厳しい排ガス基準などを定めているため、環境にも優しい施設です。啓発施設も併設され、ごみ処理見学のほか、里山散策やさまざまなリサイクル体験、ガイドツアーなども行われています。

平成 20 年に川西の元気いっぱいキャラクター「きんたくん」が誕生。市内のお寺に坂田金時（幼名金太郎）のお墓があることからイメージしたご当地キャラクターです。各地で行われるイベントなどに  
平成 7 年 1 月 17 日に起こった阪神・淡路大震災。川西市でも市民 5 人の尊い命が失われました。復興した今も、決して忘れてはならない出来事です。この経験を生かし、安全で安心なまちづくりを進めています。

現れて会場を盛り上げるほか、さまざまなグッズに活用され、市内外へ川西の魅力を発信しています。  
平成 10 年には、阪神高速道路大阪池田線延伸部が開通。大阪までのアクセスが飛躍的に向上しました。新猪名川大橋は「ビッグハープ」の名で皆さんに親しまれ、川西の景観に溶け込んでいます。  
また、人口の急増に伴い、車の渋滞が深刻化。特に「川西能勢口」駅前の踏切は「開かずの踏切」と呼ばれるほどで、渋滞の原因になっていました。これを解消すべく、平成 9 年に「川西能勢口」駅の阪急電鉄と能勢電鉄の共用ホームが完成し、立体交差事業が完了。平成 8 年には、市内を南北に走る幹線道路である都市計画道路川西猪名川線が開通したため、渋滞が大幅に緩和されました。



H元年 (1989) 再開発ビル「アステ川西」がオープン

S59年 (1984) 大阪空港訴訟が和解調印

S58年 (1983) 第2次市総合計画を策定  
市立川西病院が東畦野に新築移転しオープン

S57年 (1982) 一庫ダムが完成

S56年 (1981) 国鉄福知山線が複線電化される

S53年 (1978) 南部清掃工場が加茂に完成

S50年 (1975) 東久代運動公園が開園

S49年 (1974) 文化会館がオープン

S44年 (1969) 市火打皮革汚水処理場が稼働を開始  
第1次市総合計画を策定

S43年 (1968) 市花「りんどう」・市木「さくら」が決まる

S42年 (1967) 全国初の「川西市住宅地造成事業に関する指導要綱」を施行

S40年 (1965) ジェット機深夜便時間規制が閣議了解事項として施行

S34年 (1959) 世界平和都市を宣言

S32年 (1957) 市庁舎が中央町に完成

# 昭和29年

## …川西市誕生

S29年 (1954) 川西市制施行。川西町、多田村、東谷村が合併し、県下18番目の市として川西市となる。人口3万3,741人



# 平成元年

## …「アステ川西」オープン

●アステ川西がオープン



●第1回一庫ダム周遊マラソン大会 (S57)



●一庫ダム完成 (S57) と建設中の様子 (コンクリート打設式)



●建設中の南部清掃工場 (S53)



# 昭和40年代

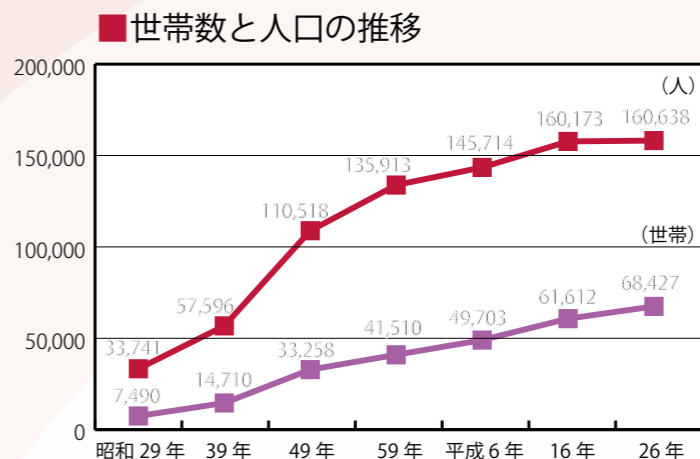
## …市内各地で住宅団地を開発

■大規模団地の開発が次々に行われた昭和40年代。団地名、計画戸数、販売開始年は次の通り。  
多田グリーンハイツ=5,759戸、S42▷大和団地=4,441戸、S43▷清和台=5,000戸、S45▷鶯の森住宅地=613戸、S47▷萩原台=1,365戸、S47▷藤ヶ丘=1,133戸、S48▷鶯ヶ丘住宅地=340戸、S56▷鷹尾山けやき坂=2,795戸、S59▷阪急日生ニュータウン=2,800戸、S60▷南野坂=525戸、H2

●鶯の森住宅地の開発 (S49)



●市制施行時の庁舎 (S29)



●建設中の南部清掃工場 (S53)



●専門店が連なる中央商店街 (S49)

# 発展—成熟へ

人口急増とともに大きく姿を変えるまち

昭和29年に川西市が誕生し、大型団地開発と共に、右肩上がりの経済情勢を背景に急速に発展していきました。今日の市の礎となった時代です。

市制施行以来、大都市近郊という立地条件と、豊かな自然、便利な交通網といった環境に恵まれた本市には、人々が集まり続けました。急激に人口が増加したことに伴い、環境整備や教育などの公共施設の拡充整備に巨額の負担が必要に。市の財政が大きく圧迫される中、昭和42年5月、団地造成者に対して負担を求める「川西市住宅地造成事業に関する指導要綱」が全国初の試みとして施行されました。

昭和57年には一庫ダムが完成。治水と住民の生活を支える水がめとして生まれた人造湖は「知明湖」と名付けられ、美しい水景となっています。

平成元年4月に川西能勢口駅南地区市街地再開発事業が完了し、「アステ川西」がオープン。専門店や文化施設などが入った複合施設として皆さんに親しまれています。

このように、私たちの暮らしと共に発展してきた川西市。それぞれの時代に合ったまちへ形を変えながら、次の時代へと受け継いできました。ずっと変わらない、ふるさとを愛する心と共に。



かわにし 60 年  
私のものがたり



川西観光プリンセス  
光村 麻衣子さん (21)

小さな頃から、ずっと住んでいるかわにしのまち。昔は森だった周囲にも、新しい家が立ち並ぶようになりました。

今、大学で学ぶため、京都に通っていますが、6月になると、周りのみんなはわざわざ京都市北部までホテルを見に行くんです。

「ホテルって本当は身近なものじゃないんだな」って、その時初めて知りました。

私は新しいまちの香りと昔からの自然が共存するこのまちが大好きです。



炭焼農家  
今西 勝さん (76)

お茶席で使う菊炭を焼き始めてからもう 60 年になりますかね。

昔は黒川地域一帯が炭焼農家でしたが、今は私の家一軒のみになってしまいました。

私たちの集落を“日本一の里山”と言ってくださる人もいますが、私たちは普通のことをやっているだけ。何も昔と変わらないのです。

他方で、守らなければならない伝統だとも思っています。今後も、かわにしの文化である菊炭を引き継いでいきたいですね。



高校生ボクサー  
丸田 陽七太さん (17)

これまで、周りの多くの人たちに支えられてボクシングに打ち込んできました。

地域の商店や幼稚園、小学校、中学校の先生など、たくさんの方が応援してくれていて、試合後、減量が終わると、お腹いっぱい食べさせてくれる店もあります。

全国優勝を経験し、アジア大会などでも戦ってきましたが、いつかプロボクサーとして世界チャンピオンになって、応援してくれている皆さんやかわにしのまちに恩返しをしたいと思っています。



川西市民オーケストラ団長  
田中 利恵さん (44)

市民オーケストラを結成したのは 3 年前。それまで「川西にもオーケストラがあれば」という思いはずっとありました。

発足当初 6 人だったメンバーも今では約 50 人にまで増えました。現在は、定期演奏会などに向け、練習を続けています。これから、もっと団員を増やし技術の向上を図って、大規模な楽団にしかできない演奏にも挑戦できればと思いますね。成長して、地域に貢献できるオーケストラになれるよう活動を続けていきます。

60 周年協賛企業 (敬称略)

アサヒ飲料(株)、ダイハツ工業(株)▷東洋ゴム工業(株)、能勢電鉄(株)、阪急電鉄(株)、阪急不動産(株)▷(株)池田泉州銀行、(株)三井住友銀行▷阪急バス(株)▷ダイハツディーゼル(株)、(株)阪急阪神百貨店 川西阪急、ベーリンガーインゲルハイムジャパン(株)

編集発行/兵庫県川西市

〒 666-8501

兵庫県川西市中央町 12 番 1 号

電話 072-740-1111 (代表)

URL <http://www.city.kawanishi.hyogo.jp>

発行年月/平成 26 年 8 月